

# 在宅リハビリテーションにおける 言語聴覚療法

2009.08.08

言語聴覚士 高松直子

素朴



素朴



在宅において言語聴覚療法が行えるようになったのは、2006年からで、まだ3年程度のものである。STの数は、今年の国家試験合格者数を含めて、15,696名、その9割以上が医療機関に就職しており、保健・福祉機関、施設および訪問看護ステーションにおけるSTの数はまだまだ少なく、地域においては、その仕事内容はどのようなものか、理解されていない面もあるように思われる。

# 日本語聴覚士協会は

私たちはことばによってお互いの気持ちや考えを伝え合い、経験や知識を共有して生活しています。ことばによるコミュニケーションには言語、聴覚、発声・発音、認知などの各機能が関係していますが、病気や交通事故、発達上の問題などでこのような機能が損なわれることがあります。言語聴覚士は、ことばによるコミュニケーションに問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援する専門職です。また、摂食・嚥下の問題にも専門的に対応します。

ことばによるコミュニケーションの問題は脳卒中後の失語症、構音障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害など多岐に渡り、小児から高齢者まで幅広く現れます。言語聴覚士はこのような問題の本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行います。このような活動は医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士などの医療専門職、ケースワーカー・介護福祉士・介護支援専門員などの保健・福祉専門職、教師、心理専門職などと連携し、チームの一員として行います。

言語聴覚士は医療機関、保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活動し、コミュニケーションの面から豊かな生活が送れるよう、ことばや聴こえにも問題をもつ家族を支援します。

## と言語聴覚士の役割について述べている

# 訪問リハビリテーションの目的は、生活再建とQOLの向上にあるが訪問での言語聴覚士の役割は

## 1.コミュニケーション障害の評価、訓練、指導

- ・障害の鑑別は特に重要(失語症？構音障害？認知症？あるいは？)

**失語症** : SLTA(標準失語症検査)などの結果をもとに、その症状にあわせ、発語練習、書字練習などを含め、その方の興味あるものから課題をみつけ改善を試みる

**構音障害** : 口型練習(パ・タ・カ・ラなど)、舌練習(舌圧、動き、汚れなど)、腹式呼吸、吸気や呼気、歌唱などを訓練する

**認知症** : 現在残っている能力を見つけ、少しでも長くその能力の維持につながるよう訓練課題を決め、行う

**高次脳機能障害** : 記憶や注意障害など、その方の症状にあわせて行う

## 2.コミュニケーション環境の評価および指導

- ・コミュニケーションをはかる人との関係
- ・コミュニケーション意欲が引き出せる「生活空間」の有無

## 3.実用コミュニケーションの方法の訓練、指導

- ・言語的および非言語的コミュニケーション方法

**言語的** : 発語練習や左手あるいは右手書字練習、パソコンなど

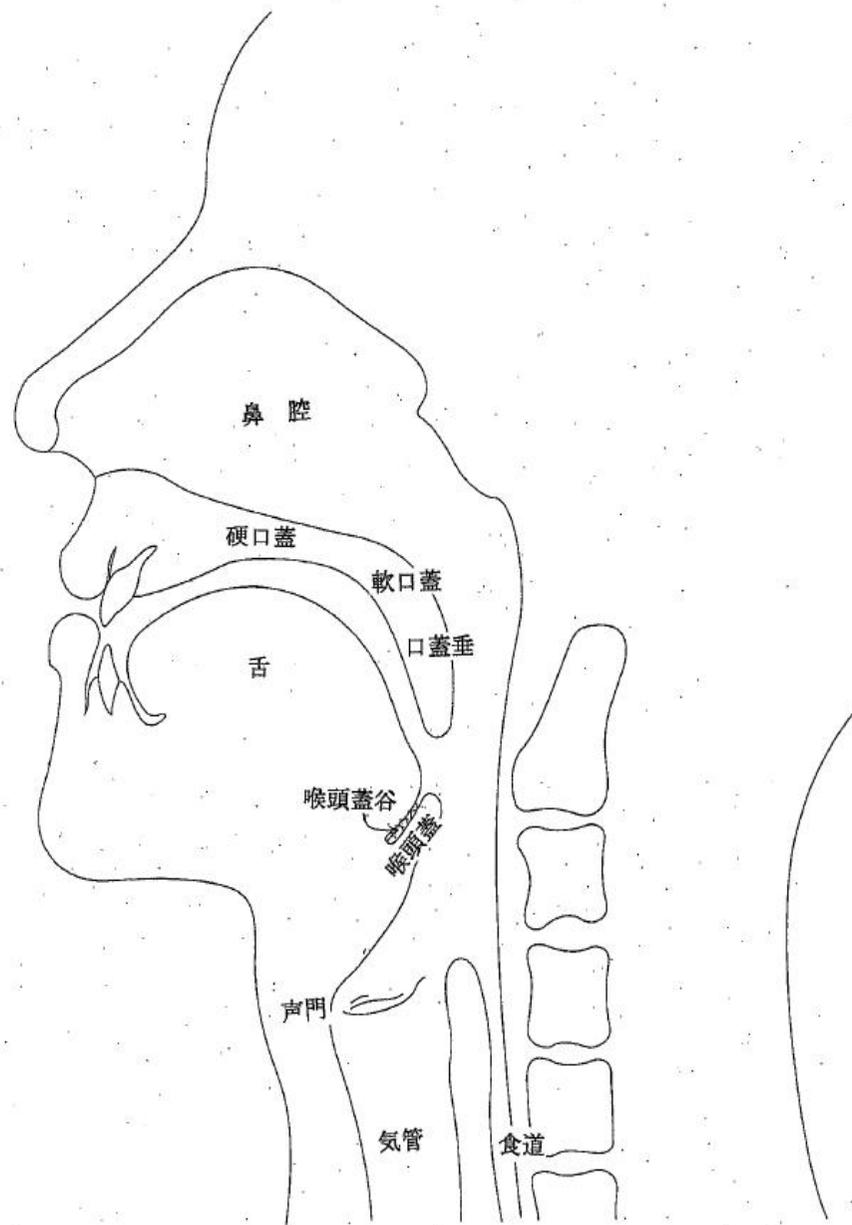
**非言語的** : 描写、写真など

## 4.社会参加への援助

- ・友の会への参加やハローワークなどへ同伴し就職手続き援助など

## 5.摂食・嚥下障害の評価、訓練、指導

- ・近年、高齢化に伴い、この障害に対する仕事が増加している。嚥下の様子  
を示す図などを用いて、詳しく説明し、食事時の姿勢から食事形態などまで、  
訓練、指導する



無断使用および転載禁止

♪♪  
 むすんで  
 ひらいて  
 バージョン

嚙  
 下  
 体  
 操

ロウキョウ  

 ロウキョウ  

 ロウキョウ  

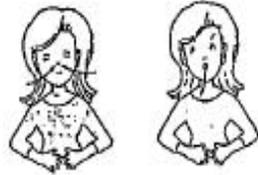
 ロウキョウ



## 嚥下体操

体

1. 腹式呼吸（体をリラックスさせる）



2. 首の運動（曲げる・廻す）



3. 肩の運動（肩をすばめる・回転）

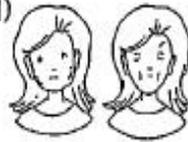


4. 両手を上にあげる（背筋伸ばし・わき腹伸ばし）



口

1. 頬をふくらませたり、緩めたりする（2-3回）



2. 口唇

大きく/a/・横に引いて/i/・・・2-3回繰り返す

3. 舌の運動

突出・引っ込み・舌苔を見る・舌を左右口角移動



4. ば、ば、ば、ば、ば

ら、ら、ら、ら、ら

か、か、か、か、か



5. 咳払い 3回

6. 空嚥下 3回

・（のど仏に指をふれながら、口を細くして息を吸い、次に口を閉じて、ゴクンで1回）

7. 歯ブラシ 歯、歯茎の他、舌、頬、上顎、口腔内全体を刺激する

8. アイシング

・唾液腺や顔面・・・（唾液の多い人）  
 ・口の中（氷をなめる）・・・（唾液の少ない人）  
 ・嚥下反射の少ない人は、アイス棒で刺激

9. 食事の後の歯ブラシまたは、お茶でぶくぶく（口腔内を清潔に）

\*参考文献：脳卒中の摂食・嚥下障害・・・藤島一郎著

# 日本言語聴覚士協会の「訪問言語聴覚療法の効果に関する報告書」では、その効果について

- ①失語症や構音障害のほか、摂食嚥下障害や全般的な精神活動低下などの重複障害をもつ方が多く、高齢に伴い障害構造が複雑化している
- ②訪問言語聴覚療法を受けた72%の方に何らかの改善が認められた
- ③友の会への参加など、社会参加を促進することにつながった
- ④家族の介護負担の軽減にも役立った

と述べている

# 今後の課題

- 1.地域リハの場合、同じところにはいない医師、歯科医師、看護師、PT、OT、ST、介護福祉士、介護支援専門員などによりおこなわれるため、詳しい情報が入りにくい。多職種間の情報の共有とチームアプローチが重要だと思われる
- 2.嚥下障害の場合、自宅でも可能なVEなどによる診断なども必要だと思われる
- 3.嚥下食など増粘剤などを使用した料理方法の家族への指導を保健所などがもっと多く行う必要がある
- 4.嚥下食がベビーフードのように、介護家族にも安価で1つからでも手に入るように、企業に販売方法を考慮してもらう